

「わたしにとどまりなさい」

ヨハネ15：1－5

堀田修一 23・1・15

I 「主にとどまる恵み」ヨハネ15章が先にあり、その恵みから「主が歩まれたように歩む」(Iヨハネ2：6)のみことばがあることを感謝したい。※教えられた恵み。自分の力による良い行いは、いつか疲れ、嫌々ながら無理をし、喜びや恵みのない不純な動機、律法主義的なものとなる。しかし、主にとどまり、主の霊的な養分から生まれる行いは、主のかぐわしい香りがする。

1. 「わたし(主)にとどまりなさい」：4の意味は→「わたしにしがみつきなさい。わたしにしっかりと結びついていなさい。わたしと密接で親密な交わり(朝、昼、夜のみことばと祈りの交わり、静まり、これまでの人生を振り返り主の恵みを思い感謝する宝の時を確保しなさい。わたしにますます近づきなさい。すべての重荷をわたしのもとに下ろしなさい。あなたがひとりで抱え込み過ぎている重荷をわたしにあずけなさい。わたしが適切な判断、識別力を与えます。わたしに憩いなさい。「主は私を緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われます」詩篇23：2。わたしの中に根を下ろし植えられなさい。「キリストのうちに根ざし、建てられ、教えられたとおり信仰を堅くし、あふれるばかりに感謝しなさい」コロサイ2：7。「味わい 見つめよ。主がいつくしみ深い方であることを。幸いなことよ 主に身を避ける人は」詩篇34：8。「わたしの愛(私たちの罪のための十字架の愛)にとどまりなさい」：9。「私のたましいよ おまえの全きいこいに戻れ。主が おまえに良くしてくださったのだから」詩篇116：7。「今持っているもので満足しなさい。主御自身が『わたしは決してあなたを見放さず、あなたを見捨てない』と言われたからです」ヘブル13：5。問題や試練を自分ひとりで受け止めないで、主にとどまり主と共に主に頼りつつ対処する。

2. 「わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人が私にとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます」：5。主がぶどうの木とは、主が私たちのすべてのいのちの霊的活力の真の源ということ。ぶどうの木である私たちは、ぶどうの木、幹である主ご自身に完全に依存し、結合し、霊的な養分、いのち、力、愛、聖さを受け続けている。感謝します！主にとどまり続ける者が、結ぶ多くの実とは＝

①主の品性に似る実＝御霊が私たちの内側に生み出される実「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」(ガラテヤ5：22, 23)、御霊による力と思慮分別と感謝という実。

②主にとどまり、主の霊的養分に満たされる人々が主を伝えるとき人々が救われる実。

※主の栄光の証し。私たちもその実のひとり。何という恵み！

③主の教会を建て上げる実。エペソ4：12

II 「イエスは十二人を任命し、彼らを使徒と呼ばれた。それは、彼らをご自分のそばに置くため、また彼らを遣わして宣教をさせ」マルコ3：14。主が使徒を任命された目的＝まず

①「それは、彼らをご自分のそばに置くため」それから

②「彼らを遣わして宣教をさせ」。マルコ3：14。これは、非常に大切な深い順序です。「宣教をさせ」が最初なら、主が使徒たちを宣教の「道具」とされたともとれます。しかし、それは全く違います。主が使徒たちを任命された第一の目的は、彼らを道具ではなく人格的に心から愛し、彼らと親しい交わりをするために彼らを「ご自分のそばに置くため」でした。私たちに対しても同じです。主は私たちの人格を愛し、私たちを「ご自分のそばに置かれ」、私たちとの親しい愛の交わりを喜ばれます。主の愛で十分愛され、主の恵みに満たされ、主の霊的な養分で養われ、その恵みに感謝し、世界中の人々、私たちの身近な人々が滅びることなく主を信じて救われるように私たちを遣わして福音を宣教させられるのです。それも、あなたがたの力でやりなさいではなく、主も御聖霊も共に働いて下さるのです。マタイ28：20。使徒1：8。感謝！

III 旧約の詩篇の記者の順番も同じです＝

①「私にとって神のみそばにすることが 幸せです。私は 神である主を私の避け所とし」

②「あなたのすべてのみわざを語り告げます」詩篇73：28

1. この詩篇の記者は、苦しみ、試練を通して、神に気づかせられた。自分の本当の問題、色々な悩みの原因は、実は自分が神の近くにい続けなかったことによると。自分は困難ばかり経験しているのに、ある人々は繁栄しているように見えたことが、これまでの問題だった。しかし、自分が神に立ち返り、神に近づく中で神から光が与えられ、明確な霊的な理解、分別が与えられた。それは、真に大切な事はただ一つであり、それは、自分の神に対する関係（いのちの結びつき、ぶどうの木と枝のいのちの結合）である。もし、自分が神の近くにいるなら、何が起こっても神と共に対処できるが、神から離れているなら、自分だけで苦難に対処しなければならず、疲れ果て、結局は何一つ正しい対処ができないと悟らされた。ただ一つ大切な事は、神の近くにいることである。私たちが神から遠く離れていれば、試練、苦難とひとりで立ち向かわなければならない。しかし、神に立ち返り、神に近くなり主にとどまるなら、事態は一つも変わっていなくても、私たちの心は、神により喜び、平安、感謝に満たされる。神の愛の御腕に憩うことができる。毎日その日を始めるごとに、何事が起きても神の近くにいることだけは止めないようにしようと自分に言い聞かせたい。苦難があっても「神である主を私の避け所とし」よう。73：28。苦難の中でも全能の神を避け所とするなら神に頼って問題への対処ができます。最高の味

方である神がいつも共におられます。

2. まず、神のみそばにいる幸い、恵みを味わい、それから、この素晴らしい神の愛と恵みと救いのみわざを感謝をもって語る宣教が生まれます。「あなたのすべてのみわざを語りあげましょう」：28。

まとめ：本日の三つのみことばの重要な共通点は＝

- ①先ず「主にとどまること」。主の愛と恵みにとどまること。「主のそばに置かれ」、主と深く交わること、主の恵みを味わうこと。

「神のそばにいることが最高の幸せである」ことを深く知ること。

- ②それから主の恵み、愛、幸い、感謝、御力により世界中に、身近な人への神の救いのみわざ、福音宣教に遣わされます。それもひとりではなく、いつも主、御聖霊が共におられ共に宣教、伝道の業をされます。

「キリストは、ことばと行いによりまた、しるしと不思議を行うカと、神の御霊の力によって、それら（福音宣教）を成し遂げてくださいました」ローマ15：18，1